



## 教育のインターネット化

### ■ 岡部 洋一

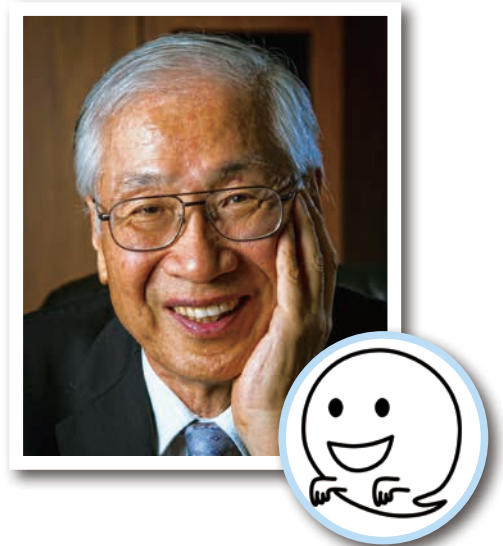
放送大学では、2015年度からようやくインターネットを使ったオンライン講義が始まりました。放送大学は、18歳を越えれば初中等教育を終了していなくても学位取得可能なように設置された（15歳を越えれば学生になれる）入試のない通信制の公開大学ですが、そうした公開大学としては国際的にも大変遅れてのスタートとなりました。独自の放送局を持たたという当時としては大変な恩恵が、逆にIT化を遅らせた要因にもなったのですが、MOOC（Massively Open Online Courses、大規模公開オンライン講座）流行の後押しもあり、やっと始めることができました。

前任校の東京大学で、Webが始まって間もないころ、これは教育に役立つのではと感じ、自分の講義にネットを導入したのが1995年でした。Webを利用してシラバスや過去問の掲載、小テストの実施、電子掲示板による討議などを行いましたが、放送大学のように直接顔を合わせることの難しい大学ではなおのこと、こうしたインターネットを利用したオンラインの講義は、授業の活性化に役に立つと、その将来に期待しております。

ただし、心配の種もあります。まずは教員がうまく乗ってくれるかです。放送による授業では、最初の放送までの準備期間に大きな仕事のピークが発生します。しかし、オンラインの講義、特に非同期（先生と学生が電子掲示板などを利用し、同時刻に会話をしない形式）の場合、平準的に比較的軽い作業が継続します。欧米での聞き取りによると、仕事の総量はあまり変わらないが、平準化には慣れが必要であるということでした。

■ 岡部 洋一  
放送大学長

1943年生、1967年東京大学卒業、1972年同大学院修了（工学博士）、2006年放送大学教授。東京大学先端研センター長、情報基盤センター長、放送大学副学長、理事、2011年より現職。



学生がうまく活性化してくれるかも別の難題です。日本、いやアジアの多くの国で、学生が議論に対し消極的であることがいわれています。東大における経験でも、半ば書き込みを強要することで発言を促し、それでうまく盛り上がることもあれば、どうしても盛り上がらないこともありました。この辺は教員のこれからのいくつかの試行に期待することになると思います。しかし、いずれかには成功して、日本の教育が一層活性化されていくことを希望します。

別の話題。これは、通信制大学ならではの課題ですが、通信制大学では、学生がかなり孤独であるという問題もあります。これを何とか救済できないかということで、私個人の実験として、SNSを始めました。TwitterとFacebook（FB）を使ってみたのです。Twitterは相手が不特定なので、難しいところがありますが、大学の周知、一般の方の感想の吸い上げなどに十分役立つことが分かりました。またFBは参加者を大学関係者に限定してバーチャルキャンパスと名付けたものを開始しましたが、正に本物のキャンパスのように、いろいろな交流に役立っています。ネット上のサークルが数十でき、さらにリアルな出会いのきっかけにも大変役立っております。学位授与式の後、多くの学生と飲み屋に行ける数少ない学長と自認しております。

